

(3) - 管理計画の提案と情報提供

比較的大きな剪定を行う「維持タイプ」や「樹形再生タイプ」の剪定では、剪定後1年目に切り口から多くの新生枝が発生する。

これらの剪定を実施した場合、翌年に多数発生した新生枝を間引き、枝数をコントロールすることが重要である。そして、2年目は間引いて残した枝の長さを調節する剪定を行うなど、毎年管理内容がそれぞれ異なってくる。

したがって、良好な樹形づくりのために、剪定タイプに応じて、その後の適切な管理方法を提案することが望ましい。



写真 大きく縮小するために強い切り詰め剪定をしたケヤキ



写真 剪定後の樹形再生のプロセスを示した看板を設置した事例(東京都南東建)

出典:「街路樹剪定士必携」(街路樹剪定士認定研修会・主要教材)第2回改訂版  
平成13年 (社)日本造園建設業協会